

フランシスコ教皇 長年の夢を叶えて離日 宣教者、巡礼者として日本に



杉原寛信使徒座管理区長認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人 下町豊重
カトリック福岡司教区
編集人 下町豊重
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部70円

12月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【世界共通】とても若い人々の将来
【日本の教会】孤独の中にある人

すべてのいのちを守るため 東京・長崎・広島の各地で呼びかける

11月23日(土)から26日(火)までの日程で東京、長崎、広島を訪問したフランシスコ教皇。自ら宣教者、巡礼者としての姿を証し、日本社会に福音の息吹を吹き込んだ。訪問地でのメッセージでは、日本と世界が抱える課題を的確に指摘しながら、「すべてのいのちを守るため」には、一人ひとりがどのような生き方に招かれているのかを分かりやすい言葉で説いた。また沈黙のうちに祈る姿、人々に歩み寄り抱きしめる姿で示した。

「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように」(ルカ1章38節)。フランシスコ教皇の訪日の豊かなめぐみを味わい、主の降誕祭を待つこの時、このマリアの言葉を今一度黙想してみたいと感じています。教皇来日の意義について四條知恵氏は「来訪の意義は言葉を受けた人々が作り出す」(西日本新聞、11月21日)と記していました。また、若松英輔氏も11月22日のツイッター

24日、長崎・爆心地公園で「責務には、私たち皆が関わっていますし、全員が必要とされています。今日、私たちが心を痛めている何百万人という人の苦しみに、無関心でいてよい人はいません」と教皇は語りかけた。来日中、キリスト者に留まらないすべての人に、この呼びかけを続けた。教皇は各地で核兵器、利己主義、弱者を排除する社会、無関心の文化にはつきりと「NO(否)」を示した。青年との集いでは「いじめ」について「Basta!」(もうたくさん)と語気を強めて語った。一方、連帯、対話の文化、いのちの文化、ゆるしの文化、兄弟愛の文化を育むよう促した。そして他者に奉仕すること、とりわけ社会の中で排除されやすい、「病気や障がいのある人、高齢者や見捨てら

れた人、難民や外国からの労働者」らを守る行動を呼びかけた。そのために包括的・総合的に物事を捉えること、過去・現代・未来の視座を持つこと、世代・国籍・文化の多様性を活かすことが肝要であると説いた。そして、立ち止まり祈ることが「すべてのいのちを守る」泉であることを、自らの祈る姿で証した。たくさん笑顔、いつくしむ姿勢、真理に満ちた言葉を残し離日した教皇。最後の訪問地の上智大学(東京)で「私たちの集いが、皆さんの人生において実を結びますように」「私の胸の中に、祈りの中に皆さんがおられることを約束します」と述べた。



東京での青年との集いで障がい者の青年を祝福するフランシスコ教皇



奇跡的な日差しに包まれた長崎のミサ会場 (写真 CBCJ)

太陽が眩しいほど輝く中、2時頃になると「一つの祈りとして声をあげましょう」と教皇の招きでミサが始まった。共同祈願はスペイン語、韓国語、タガログ語、日本語、ベトナム語でそれぞれの国の代表が行った。一方、福岡市内のカテドラル大名町教会ではパブリックビューイングが行わ



カテドラル大名町教会でのパブリックビューイング

長崎の教皇ミサに福岡教区から多数参加 一つの祈りとして声をあげる

11月24日(日)、教区内で各地の教会や団体がバスを準備し長崎のミサに向かった。個人や小グループで参加した人も多かった。本降りや雷雨の現地。各地から雨を心配する声が届く。会場(長崎県営野球場)に到着した時はレインコートに身を包み、長い入場手続きの列

に並ぶ。その後、入場を終えた頃には雨が止み、青空が広がってきた。午後1時半過ぎ、司会がフランシスコ教皇入場を知らせると、聖歌と拍手の中、パパモービルに乗った教皇が登場。笑顔で手を振りながら、会場を周る。赤ちゃんや子どもを抱くたびに、会場の歓声は大きくなる。

助祭叙階式のご案内

日時: 12月27日(金) 10時から
場所: 韓国 テグ大司教区
カテドラル ボムオ教会
受階者: マルチェロ・アパマ
ジョン・ウォン Chol 神学生
受階者のためにお祈りください。

れ、一般の方を含む約500人が集った。それぞれの場で豊かな恵みを味わう一日となった。

時の話題

教皇来日とクリスマス

「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように」(ルカ1章38節)。フランシスコ教皇の訪日の豊かなめぐみを味わい、主の降誕祭を待つこの時、このマリアの言葉を今一度黙想してみたいと感じています。教皇来日の意義について四條知恵氏は「来訪の意義は言葉を受けた人々が作り出す」(西日本新聞、11月21日)と記していました。また、若松英輔氏も11月22日のツイッター

で「教皇来日の意味とは滞在中の4日間に何が起るかではない。問題はむしろ、帰国後の国がどうなるにかかっている。教皇は言葉の種子をたずさえてやってくる。それを育てるか否かは私たちの問題だ」と語っています。クリスマス。主の降誕、受肉の神秘を味わうとき。すでに私たち(すべての人)のために来られた救い主。そして、まだ途上にある御国の建設。そこに教皇様の来日中の言葉が響きます。「責務には私たち皆がかかわっています」「無関心でいてよい人はいません」「私たち一人ひとりが決断することです」「神は私たちが愛しているだけでなく、私たち一人ひとりに使命を、

固有の召命を託しているのだと気づきます。マリアは「この身になりますように」と主のみ旨に自身を差し出しました。「あの人の身」でも「誰かの身」でもなく。一人の女性が主のはしためとしての決断をしました。教皇はいつくしみの特別聖年公布の大勅書で次のように述べています。「マリアほど人となられた神の深い神秘を知っている人はいません」(24)。イエスが与えてくださったいのちを、教皇が蒔いてくださった種を、私のうちに受肉できるように、マリアの人生を黙想しながら待降節を過ごしたいと思えます。 笹丘教会 平尾千衣子



みちくさ

「私はあなた方に平和を残し、私はあなた方に平和を与える」(ヨハネ14章参照)。これはイエスが最後の晩餐で言われたものである。そして、イエスの言われる平和とは戦争状態ではない時の平和というより、悪に対する勝利からの平和を言うのである。悪の支配下にあつては、(そこから抜け出そうとしない限り)平和はなりを潜めてしまうということになる。さて、善なるイエスから発せられる平和は人の隅々にまで届き、心を安らぎで潤わせるのである。「イエスが共にいてくださる」ことが安心であり、平和をもたらすのである。かつて天使ガブリエルから「あなたは女の中で祝福された方です。お腹にできるお子様も祝福されたお方です」(ルカ福音書1章参照)とお告げを受けた。この挨拶は何のことだろうと思いついたのはそのためである。しかし、その後の天使の言葉、「これは神の業です。神にはできないことは何一つありません」と神の全能性を説かれた時、マリアは「み旨のままに」と自分を委ねたのである(同一章)。その時にマリアの心には平和が訪れて、自由になったのである。つまり、自分自身を神に委ねた時に、「インマヌエル、神と共にいてくださる」という気持ちにしてみたら、「どんな状態でも神がそばで見守っていてくださる」という喜びに変わったということである。人を悪から救い、平和をもたらした主イエスからのプレゼントは、イエスが共にいてくださり、安心と自由を与える言葉、「私の平和をあなたの心に」を頂くだけでよい。(S)

ローマ教皇来日記念企画展 来場者の1割がカトリック信者以外

10月19日(土)から12月3日(火)までカトリック大名町教会を会場として開催された「ローマ教皇来日記念企画展」。11月28日(木)の時点での来場者は1600人となった。アンケートでは来場者の1割ほどがカトリック信者以外だった。

このような長期にわたる企画展は福岡教区として初めての試みだったが、関係各所と多くのボランティアの協力があり実施することができた。一般紙でも取り上げられ、「新聞やテレビ報道で知り来場しました」という人も多かった。また、11月頃からは「通りすがり」の人や教区外からの来場者も多くなった。また、英語・韓国語・ベトナム語の翻訳を用意したこともあり、外国籍の方の姿もあった。

関連企画としての4回の講演会、2回の映画観賞会も好評。信者からは「このような企画があって(特に映画など)、信者でない家族や知人を誘いやすかった」との声も多く聞かれた。同時開催の油絵と版画の作品展「アシジの聖フランシスコと聖クララの道」も企画展に彩りを添えた。他の地区でも開催できないかとの要望も届いている。

以下、来場者アンケートより。

- ◆教皇様のお人柄が胸に沁みるとも素敵企画展でした。
- ◆絵がとても美しかったです。また、来日されるフランシスコ教皇のことを知ることができ良かったです。
- ◆コンパクトに良く展示され良かったです。
- ◆教皇様は高齢でいらっしゃるのに、世界平和のため、福音宣教のため、力強く働いておられる姿に感動し、自分を見つめ直しました。信仰を大切にしていきたいです。
- ◆特定の宗教は持ちませんが、教皇様の姿に現れるカトリックの精神を尊敬いたします。同じ思いで生きています。



天草・崎津にてキリシタン伝来450年祭 キリシタンを生きるめぐみ



崎津教会前で花まきを行う保育園の子どもたち

この日は教会内外の関係者や東京の巡礼団など約200人が集った。午前中は森山信三神父(福岡コレジオ院長)主式の記念ミサと保育園児の花まきやロザリオを唱えながらの聖体行列が16年ぶりに行われた。

10月27日(日)、天草・崎津教会にて「キリシタン伝来450年祭」が天草3教会主任司祭II渡辺隆義神父の主催で行われた。これは、イエズス会のルイス・デ・アルメイダ修道士が崎津集落にキリスト教をもたらして450年を迎えたこと、崎津集落が世界遺産に登録されて一年に

会衆の一人は「このような温かい人たちがいたから、天草の潜伏キリシタンは生き延びることができたのだ」と感想を述べた。また、他の一人は「かつては仏教徒であり、神道の氏子だった私がキリス

福岡カトリック神学院初の神学院祭 「新しいことをわたしは行く」



神学院祭の野外ミサ

11月4日(月・祝)、「福岡カトリック神学院」となつてから最初の神学院祭が福岡市城南区の神学院キャンパスで開催された。今年度のテーマ

ト教に入信できたのは、一人ひとりを招き入れる神の恵み以外の何ものでもないことをこの記念祭で再確信した」と話した。(報告II本渡教会 前田辰江)

「見よ、新しいことをわたしは行く」(イザヤ43章19節)。明け方の雨で野外ミサの実施が危ぶまれたが、開会式には晴れ間も見え始め、無事に野外でのミサが行われた。自ら手話で説教を行った諏訪勝郎助祭(鹿児島教区)は「新しいこと、新しい酒は新しい革袋に」の福音箇所に触れ、聖霊の導きによって「新しいこと」を見分け、そのことが生きるように「新しい革袋」に入れる大切さを説いた。

聖書週間に各地で研修・勉強会 みことばに触れて生きる

聖書週間(11月17日〜24日)の初日、11月17日(日)に熊本と福岡で聖書に関する研修会・勉強会が開かれた。教皇フランシスコは、9月に自発教令を公布し「神のみことばの主目」を制定した。典礼暦の年間第3主日に記念される。それぞれの集いでは、信仰生活における「みことば」の価値を今一度、確認する時となった。

熊本・手取教会にて 聖書習慣への招き



講話に真剣に耳を傾ける参加者

11月17日(日)、熊本市の手取教会にて、「聖書週間」から「聖書習慣へ」と題した研修会が行われた。講師はレナト・フィリッピニ神父(ザベリオ宣教会/荒尾・玉名教会主任)。レナト神父は「レクチオ・ディヴィナ(聖なる読書)」(以下LD)を全国各地で啓発、実践し、それに関する本も多く著している。この日の参加者は27人。「自分では聖書を読まない」「聖書は難しいと感じる」「聖書をどう読んで良いかわからない」という人が多数。レナト神父は「福音宣教の源泉です」「福音の喜び

は自分と遠いところにあると思っていたが、実は自分が遠ざけていたのかも...」「自分ひとりでも、良くわからなくても取り組んで良いのだと勇気を頂いた。主人と二人でやってみよう」と等感想が聞かれた。

教区信徒養成部主催 聖書講座

教区信徒養成部主催で行われている聖書講座の今年度の4回目が、11月17日(日)、カテドラル大名町教会で開催された。今年度は「ヨハネ福音書」を読み進めている。今回はヨハネ4章の「イエスとサマリアの女」の箇所を取り上げた。講師の森山信三神父(福岡コレジオ院長)が文化・地理・歴史の背景の説明を行ったり、他の聖書箇所や翻訳と対比をしたりして、みことばを味わうための導きを与えた。

174)を引用し、信徒が「みことばを祈る」体験を深めることが大切だと力説した。「勉強や専門知識が必要」との先入観を捨て、神との語らひの場として言葉に触れるよう参加者を招いた。

その具体的な方法としてLDを紹介し、LDの各部分(導入、みことばの朗読、黙想、観想、祈り)を解説した。祈りは「みことばを生きる」、すなわち「神から派遣される」ことにつながるということを確認。説明のあと、その場で実践した。

その後、大名町教会でグループでLDを行っていた信徒、及び、個人で自宅で実践している信徒が発表。「昔は聖書を読んではいけないから、1年前までは聖書を読む習慣がなかった。今では毎月の集まりを楽しみにしている」「レナト神父様の著書を手引きに実践している。手探り状態でも、心の中の静かな場所での神との語らひの体験を実感、深めている」と証した。

参加者からは「みことば」

計報

マリア三末菊江 修道女
マリファの宣教師フランシスコ修道会
10月23日に帰天。享年84。

【講演会・研修会・黙想会のお知らせ】 講師・指導司祭：来住英俊神父(御受難修道会)

ザビエル聖堂講演会 12月14日(土)14~16時 「みんなのクリスマス・日本のクリスマス」
入場無料、申込不要 1月18日(土)14~16時 「未来を想像(創造)する」

◆黙想会と講習会(参加費 10,000円、定員 15人、要申込、〆切1週間前まで)

1月12日(日)~13日(月・祝) 講習会「レクチオ・ディヴィナ-聖書を祈る-」

1月25日(土)~26日(日) レクチオ・ディヴィナによる黙想会

カトリック御受難修道会・福岡黙想の家

811-4155 宗像市名残1056-1 Tel 0940-32-3222(9:30~16:30)

Fax 0940-32-3385 E-メール f-mokuso@fmokusou.com



ミサ用ワイン



ヴァノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ(赤)(白)

ご用命 お問い合わせは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰

〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち

草苑

カトリックのご葬儀

互助会制度もご利用できます。

木下株式会社

TEL 092-526-5656

〒810-0016

福岡市中央区平和3丁目1-5



11月23日、羽田空港に到着した教皇。雨風が吹き付けた。



11月24日、長崎・西坂公園。日本二十六聖人殉教者への表敬を行い、挨拶。その後、お告げの祈りを捧げた。



11月24日の長崎でのミサには3万人が集った。



ミサ会場に安置された「被爆マリア像」



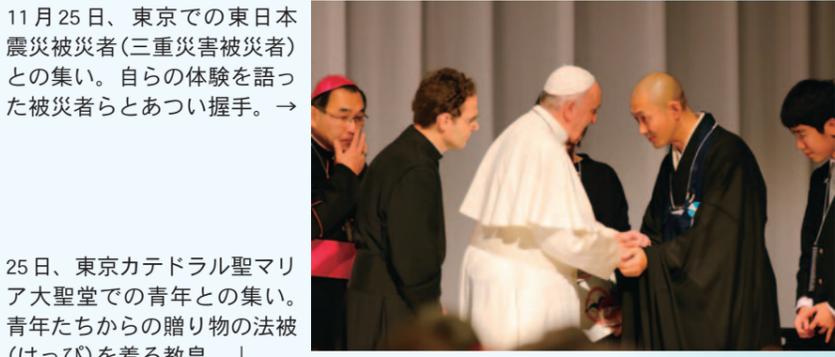
いつくしみと義を携えて



11月24日、朝10時過ぎ。長崎・爆心地公園。雨が降る中、献花の際には長い沈黙の祈りをささげた。

←退堂前、爆心地公園に設置された「焼き場に立つ少年」の写真の前で。

24日、広島・平和記念公園。到着時には来賓の一人ひとりに丁寧に挨拶。ここでも長い祈りの時間をもつ教皇。↓



11月25日、東京での東日本震災被災者(三重災害被災者)との集い。自らの体験を語った被災者らとあつい握手。→



25日、東京カテドラル聖マリア大聖堂での青年との集い。青年たちからの贈り物の法被(はっぴ)を着る教皇。↓

写真はすべて ©CBCJ



25日の東京ドームでのミサには5万人が集った。教皇が入場すると日本とバチカンの旗が振られ、会場は大歓声に包まれた。多言語での聖歌、祈りが捧げられた。



訪問地での教皇メッセージ（抜粋）

11月23日

■司教との集い（ローマ教皇庁大使館）

「皆さんを励ましたいと思います。日本のカトリック共同体の、社会全体の中での福音の明快なあかし、それを確実にするよう努力を続けてください。」

「私は信仰の偉大な証人の足跡をたどる、宣教する巡礼者としてここにいます。」

「迫害の中で信仰を守ろうとするこの献身のおかげで、小さなキリスト教共同体は成長し、堅固になり、豊かな実りを生みました。」

「有能さと生産性と成功のみを求め文化に、無償で無私の愛の文化が、『成功した』人だけでなく、どの人にも幸福で充実した生活の可能性を差し出せる文化が、取って変わるよう努めてください。」

11月24日

■核兵器についてのメッセージ（長崎・爆心地公園）

「人の心にあるもっとも深い望みの一つは、平和と安定への望みです。核兵器や大量破壊兵器を所有することは、この望みに対する最良のこたえではありません。」

「この場所は、私たち人間が過ちを犯しうる存在であるということ、悲しみと恐れ」

タイで調和と対話を促す

11月20日（水）～23日（土）、ローマ教皇は日本に先立ちタイを訪問した。アジアへの訪問は教皇就任後4度目となる。

タイのカトリック教会が準備したテーマソングは「Let Love be the Bridge」（愛が架け橋となるように）。ローマ教皇は国の要人や僧侶らと会い、民族間の調和と宗教間の対話の重要性について語りかけた。また、性産業による女性と子どもの搾取の問題についても触れた。

カトリック信徒に向けては、キリストの弟子になってください、と励ました。若者や若者が「立ち上がって」

とともに意識させてくれませぬ。」

「軍備拡張競争は、貴重な資源の無駄遣いです。本来それは、人々の全人的発展と自然環境の保全に使われるべきものです。」

「カトリック教会としては、人々と国家間の平和の実現に向けて不撤退の決意を固めています。それは、神に対する、そしてこの地上のあらゆる人に対する責務なのです。」

「祈り、一致の促進の飽くなき探求、対話への粘り強い招き、信を置く私たちの『武器』でありますように。」

「対話することのできない文化による破壊の前に目を閉ざしてよい人はどこにもいません。」

■殉教者への表敬／殉教の記念碑にて（長崎・西坂公園）

「私は一巡礼者として祈るため、信仰を確かめるため、また自らの証と献身で道を示すこの兄弟たちの信仰に強められるために来ました。」

「この聖地は死について語りかけます。自己中心、安穩、虚栄から解放され、聖霊に満たされた人々の証に触れることができる場です。」

来日中の各訪問地での教皇メッセージ・説教の全文はカトリック中央協議会のホームページに掲載されています。また、中継配信された動画は YouTube の「POPE IN JAPAN 2019」公式チャンネルで観ることができます。

「その証は、宣教する弟子として生きる私たちの信仰を強め、献身と決意を新たにします。日々黙々と務める働きによる『殉教』を通して、すべてをいのち、とくにもっとも助けを必要としている人を保護し守る文化のために働く弟子として。」

■平和のための集い（広島・平和記念公園）

「私は平和の巡礼者として、この地の歴史の中にあるあの悲惨な日に、傷と死を被ったすべての人との連帯をもって悼むために参りました。いのちの神が、（私たちの）心を、平和と、和解と、兄弟愛へと、変えてくださるよう祈ります。」（記帳メッセージ）

「兄弟姉妹の皆さん、この場所から、世界のさまざまな場所へ、信仰ゆえに今日も苦しめ、殉教の苦しみを味わうキリスト者とも心を合わせましょう。」

■長崎のミサ（王であるキリストの祭り）説教（長崎県宮野球場）

「今日ここで、私たちの信仰と約束を新たにしたいと思えます。あの悔い改めた盗人と同じく、私たちは、失敗、罪、限界ばかりの人生をよく分かっています。けれどもそれが、私たちの現在と未来を既定し、決定づけるものであってほしくありません。」

「救いと確信。それは、聖パウロ三木と同志殉教者、そしてあなたがたの霊的遺産に刻まれた無数の殉教者、彼らがそのいのちをもって勇猛に証してきたものです。」

「天の国は、私たち皆の共通の目的地です。それは将来のためだけの目標ではありません。それを請い願ひ、今日からそれを生きるのです。病や障害のある人、高齢者や見捨てられた人々、難民や外国からの労働者、彼らを取り囲んで大抵は黙らせる無関心の脳で、今日それを生きるのです。」

■三重災害被災者との集まり（東京・ベルサール半蔵門）

「一人でも『復興』できる人はどこにもいません。だれも一人では再出発できません。」

「戦争、難民、食料、経済格差、環境問題は、切り離して判断したり対処したりはできません。」

「この時代は、技術の進歩を人間の進歩の尺度にしたいという誘惑を受けています。」

■青年との集い（東京・カテドラル聖マリア大聖堂）

「クラスメイトや友人の間でも『立ち上がり』ること以上に、いじめに對抗する強力な武器はありません。そしてこう言うのは、あなたが生きているのは、とてもひどいことだよ。」

「恐れは、常に善の敵です。愛と平和の敵だからです。優れた宗教は、寛容、調和、いつくしみを教えます。」

■上智大学での講話（東京）

「あまりにも競争と技術革新に方向づけられた社会において、この大学は単に知的教育の場であるだけでなく、よりよい社会と希望にあふれた未来を形成していくための場となるべきです。」

「この霊的な貧困との闘いは、私たち全員に呼びかけられていて、あなたに特別な役割があります。これは私たちの優先事項に、大幅な変更を要求するからです。」

「特別にお願いしたいのは、友情の手を広げて、ひどくつらい目に遭って皆さんの国に避難してきた人々を受け入れることです。」

■教皇ミサ説教（東京ドーム）

「主は、私たちの日々の選択について振り返るように招いておられるのです。」

「ここ日本は経済的には高度に発展した社会です。しかし社会的に孤立している人が少なくないことに気づかされました。」

一人ひとりが支え合い、また、他者を支える場であるべきなのに、利益と効率を追い求める過剰な競争によって、ますます損なわれています。」

■政府および外交団との懇談（東京・首相官邸大ホール）

「人間の尊厳は、社会的、経済的、政治的活動、それらすべての中心になければなりません。世代間の連帯を促進する必要があり、社会生活においてどんな立場にあっても、忘れられ、排除されている人々に思いを寄せなければなりません。」

「日本社会は効率性と秩序によって特徴づけられていますが、一方で、何かそれ以上ものを見望み、探しているように見受けられます。」

■大分町教会でのパブリックビューイング参加者

「みんなと参加出来て良かったです。（重度障がい者）

「良質な大学での勉強は、ごく少数の人の特権とされるのではなく、公正と共通善に奉仕する者という自覚がそこに伴われるべきです。」

「私は、私たちの日々の選択について振り返るように招いておられるのです。」

■離日後・ツイッターにて

「私の訪日に際し、皆様私を真心を込めてあたたかくお迎えくださったことに、私は日本のすべての皆様に深く感謝申し上げます。お祈りの内に皆様のことを心に留めております。」

「この日本は経済的には高度に発展した社会です。しかし社会的に孤立している人が少なくないことに気づかされました。」

教皇来日ごぼれ話

☆福岡教区で社会司牧の拠点となつている美野島司牧センターからは、路上生活者の方、外国籍の方（主に南米）、ボランティアの方など多彩な顔触れで45人が長崎ミサに参加した。厳しい「身分証明書」の要求に路上生活者の方の入場が心配されたが、みんなの思いと支援が繋がり、無事に全員が入場できた。

☆福岡コレジオ（司祭志願院）が作成したエコバッグをメッセージと共に、学生自らフラッシュコラージュに手渡すことができた。練習したスペイン語環境問題の配慮はここにも。

私たちの心に響いたこと

「被爆者に寄り添う教皇の毅然とした平和へのメッセージに感動しました。宗教を超えて、最高の良心に触れた思いです。（非キリスト者）」

「初めてミサに参加しました。聖歌が荘厳で感動しました。母、祖母がクリスチャンだったので、私がこのミサにあずかされたことを天で大喜びしていると思います。貴重な体験をありがとうございました。（非キリスト者・路上生活者）」

「大分町教会でのパブリックビューイング参加者」

「みんなと参加出来て良かったです。（重度障がい者）」

「良質な大学での勉強は、ごく少数の人の特権とされるのではなく、公正と共通善に奉仕する者という自覚がそこに伴われるべきです。」

「私は、私たちの日々の選択について振り返るように招いておられるのです。」

「この日本は経済的には高度に発展した社会です。しかし社会的に孤立している人が少なくないことに気づかされました。」

戸畑天使園 七五三祝福式

子どもたちの健やかな成長を祈って



戸畑天使園では爽やかな青空の下、11月13日(水)にカトリック戸畑教会に於いて七五三祝福式を行った。司式は江夏國彦園長(戸畑・若松教会主任神父)。

年長児の祈りから始まり、保護者代表が聖書を朗読し、子どもの成長を願う保護者の祈りをささげた。全園児による感謝の祈りでは、神様から頂いた心と体を大切に、困っている人たちのために喜んで使えるようにと願った。

子どもたちは園長神父の祝福のお祈りと共に聖水を注いで頂き、メダイを一人ずつかけてもらい、按手のお恵みを頂いた。教会の中が園児、保護者、教職員の祈りで満ちた温かい雰囲気の中の祝福式となった。

「人からしてほしいことをよろこんですることができる、ひかりのこどもになりますように…」という温かな祈りに包まれた。

(戸畑天使園 有田裕子)

11月3日(日)、佐賀地区宣教司牧評議会(会長II下町豊重神父)主催の不動山殉教者祈念祭が、佐賀県嬉野市の不動ふれあい体育館にて開催された。



嬉野・不動山殉教者祈念祭 私たちを生かす不動の信仰

10年ほど前に不動山殉教者祈年祭に参列したことがある。その時の司式者の説教の「不動山とは、動かない山と書きまします。それ以上に、ここで殉教した人たちの信仰は不動でした。どんなことがあっても彼らは揺るぎませんでした」という言葉が印象に残っている。また、それは頑固に動か

中村倫明司教(長崎教区/写真中央)が主司式を務めた。中村司教は、植松教会の主任司教を務めていた。10年ほど前に不動山殉教者祈年祭に参列したことがある。その時の司式者の説教の「不動山とは、動かない山と書きまします。それ以上に、ここで殉教した人たちの信仰は不動でした。どんなことがあっても彼らは揺るぎませんでした」という言葉が印象に残っている。また、それは頑固に動か

11月10日(日)、晴天にめぐまれ、手取教会(熊本市)の「友愛バザー」に多くの人が訪れた。いつもながらバザーは一日だけのイベントではない。時間をおかけ、心を尽くす宣教活動でもある。バザー実行委員会を編成し9月末から抽選券を販売、「のみの市」のための寄贈品受付を始めた。マリア会ではケーキ作りと販売を開始。保健所の指導を受け衛生講習会を開催。ポスターづくり、食バザーの具材づくり、テントの設営など様々な活動でONE TETORIの強みが発揮された。今年の日曜学校の子どもたちも食バザーを分担。ポップコーン、フランクフルト、唐揚げの販売を任せ



バトナム共同体が準備したフォー(麺料理)

ミサ終了後の11時過ぎに開会をアナウンス。食バザーのテントは大忙し。信徒会館ホールの「のみの市」にも客が殺到。教会入口近くでの熊本信愛女学院生徒による「小児がん基金」のレモネードサービスが集客の流れに貢献。ベトナム共同体コーナーではチェーババというせんざい、おもちゃが並び、奥にはフォーを200杯用意。いつも月末に行っているベトナム共同体のためのミサをこの日の午後に合わせてため、熊本在住のベトナム人が約200人集った。ベトナム料理の販売だけでなく、終了後のテントの片付けなどにも協力し、大きな力となった。

い口調で会衆を魅了した。ミサ後には地元の方たちにより特産品のお茶などがふるまわれ、茶葉などの販売も行われて信徒との交流でにぎわった。(報告)伊万里教会 吉浦 健次

10月から11月にかけて、教区内の多くの教会でバザーが開催された。幼稚園と合同で行ったり、バンド演奏を取り入れたり、外国籍の共同体の参加を呼び掛けたり…。それぞれに工夫をこらしている。ラグビーワールドカップの興奮が残る中、ONE TETORI(ワン・テトリ)で取り組んだ熊本市・手取教会の「友愛バザー」を紹介する。

教区内各地でバザー ONE TETORIで「友愛バザー」

11月21日はマリアの奉獻の記念日。福岡カトリック神学院では10年ぶりに神学院感謝祭を催した。この日に集まったのは、長崎管内司教団4人と使徒座管理区長(福岡)、司祭団約30人に修道者、信徒ら約70人。



神学院大聖堂でのミサ

初めに行われたミサを主式した高見三司教は、「今日のミサで神学生養成の支援者に感謝し、合わせて司祭召命の恵みを願いましよ」と招き、説教では大神学校創立者の名前を挙げ、その功績を称えた。そして、「創立者は最後にマリア様に委ねた。私

たちもマリア様に委ねた生き方をしたい。そのためには、先に神のご意向を求め、自分の考える必要がある。マリア様の奉獻に合わせ、神に捧げる日々を過ごせるようにマリア様に取次いでいただく」と諭した。

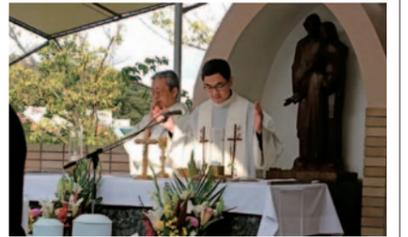
福岡カトリック神学院感謝祭 久しぶりの感謝祭に胸躍る

和田墓地で死者の月のミサ

11月10日(日)、福岡教区の和田墓地(福岡市南区)でミサと8人の方の納骨式が行われた。ミサは約150人の参加と例年よりも少なくなっている。事前の10月27日には一般清掃も行われたが、これも今までで一番少ない17人の参加であった。

平田三好神父(糸島教会主任/和田墓地担当司祭)はミサの中で「帰天された方は天国で私たちのために神に取次を願って祈ってくれています。私たちも死者のために祈り、天国で会うのを楽しみにして生きましよう」と述べた。

現在、和田墓地の納骨堂奉安室所有者は1000人を超える。納骨堂委員会の一人は「和田墓地は各小教区の協力で維持され成り立っています。より多くの信者さんが清掃とミサへ参加するようになってほしい」と語った。



キリスト教の幼稚園で演じられる「聖劇」。しかし子どもたち全員がやりたい役になれないわけではあります。「聖劇はみんなで作るんだって先生に言われて」。さあ、聖劇はどうなりましたか?



☆みんなのせいげき 絵/文 つるみゆき 本体1300円+税

教皇フランシスコが教皇就任の年、ワールド・ユースデーに集う世界の若者に向け発せられたメッセージなどの中から選ばれた365の言葉。一見、単純に思える教皇フランシスコのことは、読むほどに深い味わいをもっている。毎日教皇とともに神に近づこう。教皇の言葉が数行書かれた後に、内省の問いかけがあり、生活の歩みに具体的に照らしをされる。

教皇フランシスコが教皇就任の年、ワールド・ユースデーに集う世界の若者に向け発せられたメッセージなどの中から選ばれた365の言葉。一見、単純に思える教皇フランシスコのことは、読むほどに深い味わいをもっている。毎日教皇とともに神に近づこう。教皇の言葉が数行書かれた後に、内省の問いかけがあり、生活の歩みに具体的に照らしをされる。



☆教皇フランシスコとともに 日々の内省 ケヴィン・コッター 編 里見貞代 訳



不動産全般/売買・賃貸・管理 何でもお問い合わせください (株)ジャパン・スマイルか 代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子 〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号 TEL 092-761-8800 http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション 自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。 春日市天神山7-91 TEL&FAX 092-517-6313 福岡プライマリケア株式会社 代表:エリザベト熊谷

総合建築業 一般住宅(新築・改築工事) 鉄骨工事 RC工事 建築の事なら何でもお気軽にご相談ください 有限会社 森山工務店 ヨゼフ 森山 森山 森山 福岡市早良区四箇1丁目15番28号 (092) 811-7265

本との出会い 人との出会い 神との出会い セント・ポール FUKUOKA キリスト教書籍・信心用具・ビデオ・DVD・CD 福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F 平日/AM10時30分~PM5時 日曜/AM11時~PM2時(定休日水曜・祝日) TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601 URL:http://www.pauline.or.jp

年間目標

信じる喜びから 伝える喜びへ

福岡教区の公式ホームページが新しくなりました。準備中の個所もありますが、ご了承ください。これから充実させて参りますので、皆さまのお祈り、ご協力をよろしくお願い致します。

リニューアルに伴い公式 Facebook ページ、YouTube チャンネルが開設されています。YouTube チャンネルでは「主日の音声説教」を配信しています。「カトリック福岡司教区」で検索ください。(教区情報センター)

第72回 福岡市民クリスマス

日時: 12月9日(月) 19時~21時
場所: 福岡市民会館
メッセージ: 横田法路牧師
コンサート: 中山栄嗣氏他
問合せ: ☎ 092-292-1769 市民クリスマス実行委員会事務局

クリスマスチャリティーコンサート

日時: 12月14日(土) 14時~(開場13時半)
場所: 聖マリア病院雪の聖母聖堂(久留米市津福本町422)
演奏者: 松本俊穂(パイプオルガン)、コラール長崎(聖歌隊)
問合せ: 聖マリア病院 チャプレン室(山本) ☎ 0942-35-3322(内線2455)
入場無料(台風19号災害支援のための自由献金)

福岡教区広報室アドレス

http://fukuoka.catholic.jp
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

案内板

会合と催し

12月のこよみ

福岡黙想の家ご案内 12月

12月 6日(金)~7日(土) 個人黙想
7日(土) ロザリオの会
7日(土)~8日(日) 待降節黙想会
11日(水)~12日(木) 個人黙想
14日(土) 来住神父講演会(2面参照)
22日(日) ザビエル聖堂「子と母のクリスマス会」

2019年12月29日(日)~2020年1月5日(日) 休館

※お電話またはメールでお問合せください。
*宗像市名残1056-1 ☎0940・32・3222 FAX0940・32・3385
Email: f-mokuso@fmokuso.com

本紙2面下広告に来住神父の講演会・研修会・黙想会情報を掲載

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

※祈りの集い

年間テーマ: 「祈り」 神秘体験~キリストによって神との出会い
日時: 12月12日(木) 10時~15時
内容: 「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にあるのである」(マタイ18・20)

指導者: フランコ・ソットコルノ神父(聖ザベリオ宣教会)
問い合わせ先: 真命山諸宗教対話・靈性交流センター
☎0968・85・3100 FAX0968・85・3186
熊本県玉名郡和水町崎浦1391-7・E-mail shinmeizan@gmail.com

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時: 12月7、14、21日(土) 10時~11時45分
1月11日(土)・25日(土) 10時~11時45分
場所: カトリック大名町教会小聖堂

1日(日) 待降節第1主日 宣教地召命促進の日(献金)
3日(火) 聖フランシスコ・ザビエル司祭
責任役員会・教区顧問会
7日(土) 聖アンブロジーノ司教教会博士
8日(日) 待降節第2主日
9日(月) 無原罪の聖マリア 福岡市民クリスマス
12日(木) †M. コーフィールド(2001年 島崎教会)
13日(金) 聖ルチアおとめ殉教者
14日(土) 聖ヨハネ(十字架の)司教教会博士
†J. モラハン(2002年 水俣教会)
15日(日) 待降節第3主日 †D. カレン(2003年 崎津教会)
18日(水) †J. ドゥーリ(2001年 島崎教会)
†L. メネガッツォ(2016年)
22日(日) 待降節第4主日
24日(火) 降誕祭夜半のミサ
25日(水) 主の降誕
26日(木) 聖ステファノ殉教者
27日(金) 聖ヨハネ使徒福音記者
28日(土) 幼子殉教者
29日(日) 聖家族 †M. マホニー(2014年 笹丘教会)

【1月】

1日(水) 神の母聖マリア 世界平和の日
†C. バスチ(2002年 黒崎教会)
†A. ラプラント(2015年 大神学院)
5日(日) 主の公現
10日(金) †A. ベルトラン(2017年 門司教会)
12日(日) 主の洗礼

福岡

レジオナリ工福岡クリア(日時)12月8日(日)14時から(場所)高宮教会(問合せ先)☎090・9654・9969
聖書に集う会(日時)12月11日(水)14時~15時半(場所)サンパウロ福岡宣教会センター3階ホール(問合せ先)☎070・2820・9613 Br.阿部(パウロ会)
震災のための祈りのリレー(日時)12月11日(水)ミサ6時10分から夕の祈り(テゼの祈り)19時から(場所)大楠教会(問合せ先)☎070・2820・9613 Br.阿部(パウロ会)
福岡ホスピスの会コンサートJAZZ&R&G(日時)12月13日(金)15時~16時(場所)サンパウロ福岡宣教会センター3階(チケット)1500円(飲み物付)予約制(問合せ先)☎090・1162・6339 柴田
福岡チエナクルム(司祭の MARIA 運動)(日時)12月13日(日)12時

日(金)10時ミサ後(場所)高宮教会(問合せ先)☎090・7468・3631 西田
祈りの集い・「家庭の友」12月14日(土)14時から(場所)聖パウロ修道会福岡修道院(問合せ先)☎092・541・3730 松山※「家庭の友」持参
グレゴリオ聖歌を歌う会(日時)12月17日(火)11時から(場所)聖クララ寮(内容)待降節のグレゴリオ聖歌ミサとベネディクション(問合せ先)☎096・380・5686 堺
福岡召命を共に祈る会(日時)12月17日(火)13時から(場所)大名町教会(内容)ミサと分かち合い(問合せ先)☎092・921・4532 山口
師イエス祈り会(日時)12月20日(金)10時ミサ後(場所)高宮教会・小聖堂(問合せ先)☎090・7468・3631 西田
ウルスラ祈りの集い(テゼ)(日時)12月22日(日)16時から

北九州
小倉祈りの集い(日時)12月27日(金)13時半~15時(場所)小倉教会信徒会館2階(問合せ先)☎090・3985・5209 松田
熊本地区召命を共に祈る会(日時)12月19日(木)10時から(場所)手取教会(問合せ先)☎096・368・2825 健康教会・浦川神父
司祭の異動
(2019年11月15日付)
◆東研神父(聖ザベリオ宣教会/菊地・山鹿教会協力司祭)
荒尾教会協力司祭(常駐)
編集後記
すべてのめぐみに感謝!(C)

「喜びを伝えるキリストのメッセージを、人々が見出す助けができますように。それは愛といつくしみのメッセージです。」 教皇フランシスコ

Table with columns for church names (教会), dates (24日, 25日, 31日, 1日), and times for Christmas Eve (降誕夜半), Christmas (降誕祭), and New Year's Eve (大晦日), and New Year's (元旦). Rows list various churches across different regions like Fukuoka, Sasebo, and Kyushu.

メモリーホール
人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
薬院・油山・野芥・小田部・今宿
馬出・南福岡・大野城・飯塚
市民葬儀・法事相談センター
六本松店・赤坂店
☎0120-45-1616

社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院
医科・歯科臨床研修指定病院
総合周産期医療センター
がん診療連携拠点病院
地域医療支援病院
救命救急センター
地域災害拠点病院
〒830-8543
福岡県久留米市津福本町422
TEL0942-35-3322(代表)
FAX0942-34-3115
http://www.st-mary-med.or.jp

痛みの相談室
いくま整骨院
受付時間
平日: 9:30~12:00
14:30~20:00
土曜: 9:30~15:00
休診: 日曜・祝祭日
福岡市西区姪浜駅南1-7-12-2F
Tel. 092-884-0134
ペトロ 生熊吉

キリスト教書籍・用品
お買い物は365日、24時間 いつでもどうぞ!
http://www.paulus.jp
パウルスショップ
メディアによる福音宣教のために...
サンパウロ福岡宣教会センター
10:00~18:00(月~土)/日・祝日休業/地下鉄赤坂駅より徒歩3分*駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 ☎092-721-2032 fax.739-3930